

日臨技アンケートと認定資格取得状況からみた卒後教育への意識

藤本 一満 (天理医学技術学校)

検査技師は、発展する臨床検査に対応するため職場での研修や技師会関連の生涯教育研修等に参加、さらに各種認定試験を受験し自らを磨いている。今回、日臨技アンケートおよび認定資格取得状況から卒後教育に対する意識をみた。

[方法]平成15年度組織調査報告書(日臨技)を参考にし技師会の生涯教育ならびに認定検査技師制度に対する意識をみた。認定資格取得状況は、認定輸血検査技師、超音波検査士、緊急臨床検査士、一級・二級臨床検査士の各事務局から入手した。

[結果および考察]1.生涯教育意識調査:日臨技生涯教育制度について、必要と思う60%、思わない10%。日臨技認定検査技師制度について、必要と思う61%、思わない9%であった。卒後教育に関する意識は比較的高く、各自の学習する意欲が伺えた。2.認定資格取得状況:認定輸血検査技師は'97~'03年の7年間に1580人が受験し701人(44%)が合格。超音波検査士は、'85~'04の20年間に延べ7525人が合格し、うち検査技師6978人(93%)、放射線技

師463人(6%)、准・正看護師40人(1%)であった。緊急臨床検査士は、'92~'03の12年間に1344人が受験し1001人(74%)が合格。二級臨床検査士は、'54~'03の50年間に延べ46690人が受験し、27058人(58%)が合格。最近15年間の平均受験者660人、合格者408人(62%)であった。一級臨床検査士は、'56~'03の48年間に延べ1120人が受験し、192人(17%)が合格。最近14年間の平均受験者31人、合格者6人(19%)と、二級試験に比べ極端に受験者、合格率とも低かった。上述の認定資格のうち、超音波検査士および緊急臨床検査士は受験者が増大しており、職場の要求内容と試験内容が一致しているものと思われる。一級・二級臨床検査士は専門性が高いためか、受験者は減少傾向であった。

[結語]検査技師の卒後教育への意識は比較的高く、各自が技師会関連の生涯教育研修や認定資格試験等を上手に利用し、知識・技術の向上を計っているものと思われた。

連絡先 0743-63-2002